

2023年度 独創的研究助成費 実績報告書

2024年 3月 29日

報告者	学科名	建築学科	職名	准教授	氏名	畠 和宏
研究課題	日常時から災害時まで活用可能な木組みシステムの開発と展開					
研究組織	氏名	所属・職	専門分野	役割分担		
	代表 畠 和宏	建築学科・准教授	建築計画			
	分担者					
研究実績 の概要	<p>本研究は、2020年度から継続的に取り組んでいる「木を用いた場づくり」に関する研究として位置づけられるものである。今年度は、2022年に開催された「最低限のシェルター空間国際設計コンペ」への応募を機に企画・開発を行ってきた「ふだん木」の社会実装に向けた動きを推し進めることを目的とした。岡山県内での実証実験を通してその可能性や課題を検証するとともに、防災イベント等での広報活動を行った。また、国内外で防災と災害復興支援活動を行っている一般社団法人ヒトレンと連携し、能登半島地震で被災した石川県珠洲市の避難所にふだん木を提供した。今後も被災地支援に継続的に関わりながら、ふだん木の社会実装に向けて動いていく。</p> <p>研究期間中の主な実績を以下に示す。</p> <p>1. 第3回フェーズフリーアワード2023 作品タイトル：日常時から災害時までフレキシブルに活用できる木組みシステム「ふだん木/FUDAN-GI」にて、「第3回フェーズフリーアワード2023事業部門」に入選</p> <p>2. 地域での実証実験 岡山県内の商店街におけるイベントにて、ふだん木を活用した実証実験を行った。</p>					
						

※ 次ページに続く

3. 災害ボランティアフェスティバル

2024年3月9日に本学で開催された「令和5年度災害ボランティアフェスティバル」において、ふだん木の展示を実施した。



研究実績 の概要

4. 能登半島地震被災地への支援

国内外で防災と災害復興支援活動を行う一般社団法人ヒトレンと連携し、令和6年能登半島地震で被災した石川県珠洲市内の2か所の避難所にふだん木を提供した。



成果資料目録